

# 島原農高 IOT 人材育成

## 効率的な農業を学ぶ授業

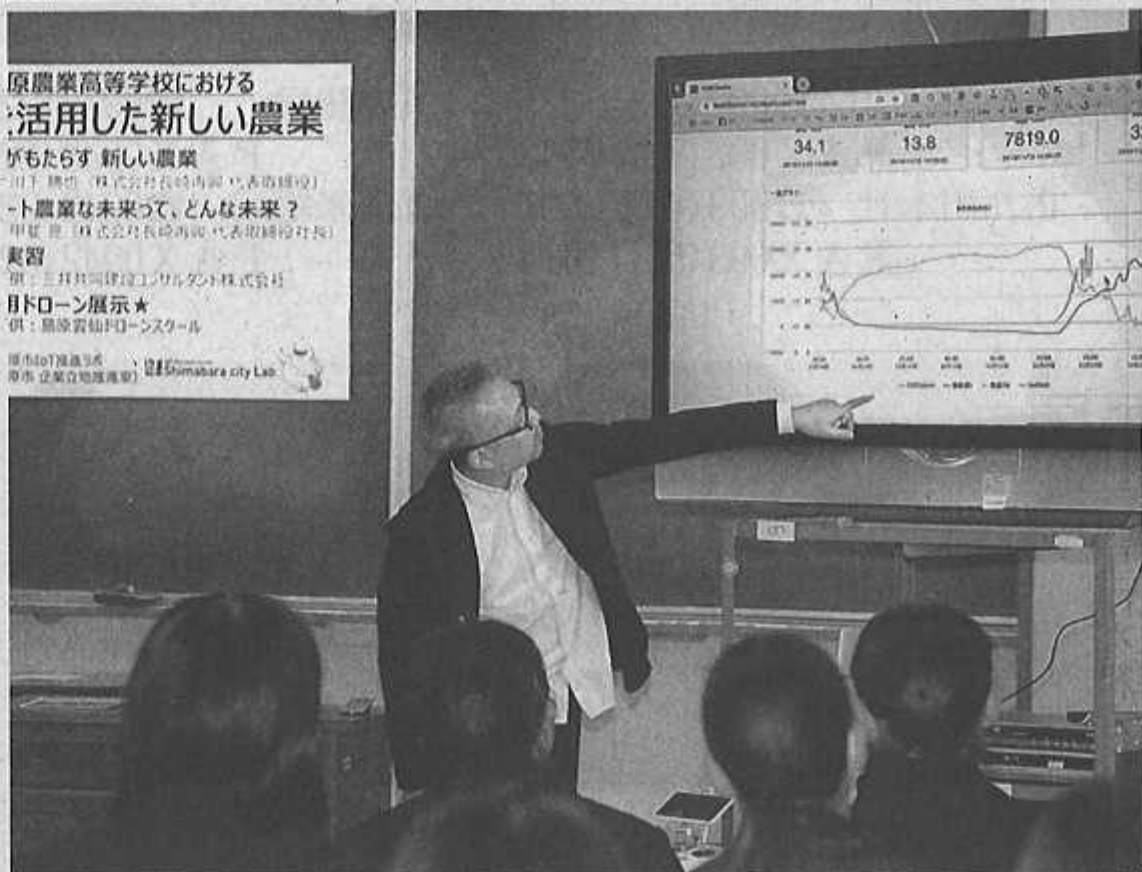
島原市下折橋町の島原農高（前田達彦校長、383人）は、情報通信技術（ICT）やIOT（モノのインターネット）を農作物の栽培に活用する授業を始めた。ビニールハウス内の気温などをスマートフォンで知ることができ、蓄積したデータを基に効率的な農作業の組み立てなどを学ぶ。

IOTを活用できる人材育成などに取り組む市IOT

T推進ラボ事業の一環。同校がビワ（25坪）と野菜（15坪）を栽培するハウス2棟に、気温や湿度、照度を測るセンサーと撮影用のカメラを設置し、スマートフォンなどにデータを送信する仕組みを提供した。

運用を始めた15日には、IT支援などを手掛ける長崎再興（長崎市）の役員2人を講師に招いた特別授業を実施。園芸科学科2年の34人が、ハウス内のデータを視聴覚教室のスクリーンで確認しながら、新技術の導入による省力化やデータの分析で効率的な農業を実現するスマート農業などについて学んだ。

同校はデータを前年と比較するなどして、水管理などの手入れの最適な時期の把握や害虫の発生防止などの危機管理に役立て、農業の実習に生かす。同学科2年の宇土翔真君（16）は「人が



原農高高等学校における  
活用した新しい農業  
がもたらす新しい農業  
-ト農業な未来って、どんな未来？  
甲斐 昌一 株式会社長崎再興 代表取締役社長  
実習  
期：三井共同建設コンサルタンツ株式会社  
目ドローン展示★  
供：島原市ドローンスクール  
島市IOT推進ラボ  
（島市 農業立地推進部）

ハウス内のデータを視聴覚室で確認しながら進められた特別授業

毎日、気温などを測る必要がなく、省力化にもつながる」と話した。  
（真弓一夫）